明大スポーツ
12月19日 水曜日
平成30年(2018年)
第491号
明大スポーツ新聞
創刊 1952年
編集人 吉賀 早太郎
東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL(03)3296-4545 FAX(03)3296-4509
http://www.meidai.net/

香うどん丸香

箱根駅伝特集号

対策万全 天下の険にも不安なし 復活の箱根駅伝 4年ぶりシードへ

古豪復活の狼煙を上げる。昨年度、10年ぶりに箱根駅伝（以下、箱根）出場を逃した明大。チーム再建へ、4月から新体制が整った。その1つが駅伝監督の就任し、新たな指導体制が整った。そして、箱根路で栄冠旋風を巻き起こす。

1月2日8時号砲

箱根駅伝運営委員会は5位、11月の全日本大学駅伝（以下、全日本）では3年ぶりの一桁順位とチームは上り調子だ。最終目標は2014年度以来のシード権（以下、シード）奪還。強い明大を取り戻し、箱根路で栄冠旋風を巻き起こす。

瀬古氏も太鼓判「3番以内のチャンスもある」

スピード×距離への耐性で進化

改革

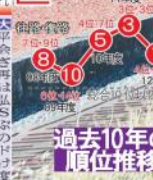
これまでの明大の対する評価は、エントリー選手の上位10人の1万m平均タイムは、毎年、ほぼ横ばいで着実に、どころが、チーム通りに走ることができず、持ち味を発揮できなかった。個々の能力は他大学に引けを取らないのに、なぜ結果を残せないのか。原因は練習にあった。これまで明大は5000mと1万mのタイムを重視してきた。スピード化が中心。しかし箱根は二日間の距離が200km以上。速さだけではなく、長い距離を走りきれる力が必要だ。山本駅伝監督はそこに着目。「長い距離を走るための1万mを重視」と、夏合宿では距離を伸ばすことを目的とした。

適性

箱根に臨むにあたり、1万mの記録が速いだけでも山では勝てない。明大のエース格の鈴木聖人（法3＝静岡）は「一つの集団が5区の山に前回の経験とは言えない。激動の高校生活を乗り越えた4年間の集大成（法人）が入賞を目指す。

継走

今年度は、2区の主将・小袖英人（営4＝鹿児島）と3区の三輪軌道（営4＝鹿児島）と上位で襷を渡すことに重点を置く。1、2区で上位に食い込むことで、後半区間の選手が楽に走ることができる。



合宿をプロデュースする毎日コムネットです
毎日コムネット
観光庁長官登録旅行業 第1629号
〒163-1505 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー5F
学生旅行営業課 新宿各所センター 担当 野崎
E-mail:kouhei_nozaki@maicom.co.jp
TEL03-5322-0489
年間購読のお申し込みは 0800-400-3157

TRY! YOMIURI!
読売新聞
読み終えた新聞はお持ち帰りください